

情報ボックス

令和元年度第2回目の情報ボックスです。今回は「感覚と運動」について発行しましたが、今回は実践編をお伝えします。

ねらい

感覚遊具などを使用することは、前庭感覚刺激の受容を高める目的や「揺れる」「跳ねる」などの様々な刺激を受け自分の身体が空間に対し、傾いているか、まっすぐか、停止しているか、固有覚などの受容を高める目的として使用することがあります。他にも、自分の身体の様子に気づいたり、転ばないようにバランスをとったりする学習につなげていくことをねらいとすることができます。また、遊具を楽しむ中で「もっとやりたい」「もう1回したい」と期待感を持ったり、「楽しい」「こわい」という気持ちの表出を促したりすることやコミュニケーションをとることも目標とすることができます。

やってみよう！

ホーススイングを使った取り組み

目標

- ・姿勢を保持する。
- ・自分の身体がどんな状態か把握する。
- ・自分で遊具を動かそうとする。



○教員がホーススイングを揺らすことで自ら姿勢を保持しようとする。また、児童生徒とのやりとりの中で自ら遊具を動かそうとする環境を設定するようにする。

ボールを使った取り組み

目標

- 姿勢を保持しようとする。
- ボールを使った活動の中で気持ちを表出する。



○児童生徒の様子を見ながら少しずつ揺らす。身体が傾いたときに自分で立て直そうとする。また、繰り返し活動を行うことで、教師の声かけに対してボールに乗っているときに「楽しい」「嬉しい」という気持ちを表出したり、揺れが止まると「もう1回!」とアピールしたりする姿も期待できる。

感覚運動遊具などを使用する上での注意点

全ての子どもが同様の揺れや揺れの大きさを好むわけではありません。児童生徒一人ひとりによって実態は様々なのです。

児童生徒の中には、前庭感覚が過敏で揺れなどを苦手とする子どもたちもいます。児童生徒の様子を見ながら無理をせず、少しずつ始めましょう。優しく揺らし、少ない刺激から活動を始めるようにしましょう! 子どもによって適度な刺激の量を見つけましょう!

反対に前庭感覚が鈍磨な児童生徒もいます。前庭感覚が鈍感であると必要以上の動きを好む場合があります。もし児童生徒が必要以上の揺れなどに執着していても、すぐに止めずに様子を見て、そこから違った遊びに展開していきましょう!

まとめ

遊具をとおして児童生徒が様々な感覚を受けることで自ら身体を動かしたり、表出を促したりすることが期待されますが、子ども一人ひとりの実態は違います。目的やねらいをしっかりと持って個々に応じた指導を心がけるようにしましょう! 子どもたちとじっくり関わり、反応を見ながら感覚遊具などを使った指導をお試してください。